

病 防 第 2 3 号 の 1 2
平 成 2 8 年 3 月 2 9 日

各 { 関係機関の長
市町村長（農務関係課）
農業協同組合長
農業共済組合長
病虫害防除員 } 様

岐阜県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報（地区情報）の送付について

別紙のとおり予想されますので、指導上の参考にしてください。

記

病虫害発生予察情報（美濃地域） 4月予報

所 属	岐阜県病虫害防除所 企画情報係		
係 長	今 村	担 当	杉 原
T E L	0 5 8 - 2 3 9 - 3 1 6 1（直通）		
F A X	0 5 8 - 2 3 4 - 0 7 6 7		

病害虫発生予察情報(美濃地域) 4月予報

【野菜類】

灰色かび病

果実や葉先枯れ、枯死した花卉に発病が見られます。今後の気温は平年より高いと予想され、施設内が発生適温になると考えられることから、本病は増加すると予測されます。発病部位のほか、葉先枯れや花がら、果梗などの枯死部位は本病の発生源となるため、早めに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分してください。また、現在発病していないほ場でも、発病を認めた場合は発生初期の防除を徹底してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(4月)

作物	病害虫名 (防除適期)	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
水稲	ヒメトビウンカ	やや少				＜第1世代幼虫発生(小麦)＞			・小麦での防除を行う。

小麦	生育	早	＜出穂＞						(農林61号)
	赤かび病	並	＜感染＞						・赤かび病 高温多雨の気象条件で発生が助長される。ほ場ごとの生育状況をよく観察し、防除適期である開花始期とその7~10日後の防除を徹底する。 ・窒素質肥料の過用を避ける。
	うどんこ病	少	＜発生増加＞						
	防除適期		赤かび病・うどんこ病▲~						

カキ	生育	やや早							(富有) 発芽期 3/17 (平年 3/21)
	フジコナカイガラムシ	並	＜新梢へ移動＞						・昨年、多発したほ場では注意する。薬剤防除は、散布ムラがないよう丁寧に行う。
	防除適期		▲~フジコナカイガラムシ						
ナシ	生育	並							(幸水) 発芽期 3/17 (平年 3/17)
	黒星病	並	＜感染＞						・開花期に降雨が多いと感染が拡大するため防除を行う。
	赤星病	並	＜感染＞						
防除適期		▲~赤星病・黒星病							

注1) ▲ : 防除適期

<施設野菜>

作物	病害虫名	4月 (予測)	発生状況及び今後の予測	3月 (発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	灰色かび病	やや少	調査ほ場で発病が認められる。枯死した花がらや果梗等から発生しやすく、今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるため、増加が予測される。	少	・灰色かび病 発病部位の他、枯死した花卉や果梗部は見つけしだい除去し、被害の拡大を防ぐ。 ・ハダニ類 ほ場内をよく観察し、発生が認められれば薬剤防除を実施する。同一系統薬剤の連用は避ける。
	うどんこ病	やや少	調査ほ場では発病は認められない。今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるため、増加が予測される。	少	
	ハダニ類	やや少	調査ほ場で発生が認められる。防除により発生量は少ないが、今後、気温は高いと予想され、増加が予測される。	少	
	コナジラミ類	やや少	調査ほ場では発生は認められない。今後、気温の上昇により増加が予測される。	少	
トマト	灰色かび病	多	調査ほ場で発病が認められる。葉先枯れやがく枯れ等から発生しやすく、今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるため、増加が予測される。	やや多	・コナジラミ類 施設内の発生状況に注意し、本虫が増加する前に薬剤防除を行う。
	コナジラミ類	多	調査ほ場により発生量に差が見られる。今後、気温上昇により増加が予測される。	多	
キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。一部の罹病性品種では発生すると予想される。	少	・べと病 曇雨天が続くと発生量が増加するため、薬剤防除を行う。 ・アザミウマ類(ミナミキイロ) MYSV (メロン黄化えそウイルス)を媒介するため、低密度でも薬剤防除を行う。
	うどんこ病	やや多	調査ほ場で発病が認められる。今後、気温の上昇により、施設内が発生適温となるため、増加が予測される。	並	
	べと病	多	調査ほ場で発病が認められる。今後、降水量は平年並みと予想されており、引き続き発生すると予測される。	多	
	アザミウマ類	やや少	調査ほ場では発生は認められない。今後、気温の上昇により増加が予測される。	少	
	コナジラミ類	やや少	調査ほ場では発生は認められない。今後、気温の上昇により増加が予測される。	少	

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 調査品種: イチゴ(濃姫・美濃娘)、トマト(CF桃太郎J:葉かび病耐病性)、キュウリ(極光・千秀2号:褐斑病耐病性)

数値データ

イチゴ		H27	平年
灰色かび病 (発病果率)		0.1	(0.3)
うどんこ病 (発病株率)		0	(0.0)
ハダニ類 (寄生株率)		2.7	(9.7)
コナジラミ類 (寄生株率)		0	(2.0)
トマト			
灰色かび病 (発病果率)		0.6	(0.4)
コナジラミ類 (誘殺頭数)		2.5	(1.4)
キュウリ			
褐斑病 (発病葉率)		0	(0.1)
うどんこ病 (発病葉率)		1.7	(1.6)
べと病 (発病葉率)		0.08	(0.02)
アザミウマ類 (寄生頭数/葉)		0	(0.02)
コナジラミ類 (寄生頭数/葉)		0	(0.0)

注1) 平年値は品目によって異なるが概ね最近8カ年の値

注2) イチゴ、トマトは3ほ場、キュウリは2ほ場の調査

注3) () 内数値は平年値、単位は株率・果率・葉率は%、頭数は頭

注4) トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板1枚あたりの誘殺数 (調査期間: 3/1~3/IV)

野菜類 コナジラミ類

トマト施設内に設置した黄色粘着板への誘殺頭数は、3月第1半旬~3月第4半旬で1枚あたり2.5頭(平年1.4頭)と多くなっています。コナジラミ類は成幼虫の排せつ物によるすす病のほか、ウイルス病を媒介します。特にタバココナジラミは低密度であってもトマト黄化葉巻病ウイルスを媒介するため、注意が必要です。

今後、気温は平年より高いと予想されており、施設内での発生増加が予測されるため、効果の高い薬剤によって発生初期の防除を徹底してください。なお、内張り内や暖房機下の雑草などでの寄生が考えられるため、それらの除去も行ってください。



タバココナジラミ

オンシツコナジラミ

＝施設栽培の病害虫防除について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

果樹 カメムシ類

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果 (頭)

調査場所		H27	平年
岐阜市	東秋沢	0	3.0
	彦坂川南	1	2.0
海津市	南濃町奥条	1	2.0
大野町	松山	0	0.7
本巣市	法林寺	0	1.7
美濃市	曾代	4	2.3
美濃加茂市	山之上西洞	1	1.4
	山之上中之番	2	0.9
中津川市	落合	0	0.2
	千旦林	1	0.8
	阿木	0	0.9
平均		0.9	1.4

注1) H28.2 落葉採取

注2) 調査地点あたり落葉を50L採取し、ハンドソーティングにより調査

チャバネアオカメムシ越冬量調査の結果、11調査地点中6地点(54.5%)と、調査地点の約半数で越冬が確認されました。春期の餌が不足すると早期に果樹園へ飛来すると考えられるため、今後の情報に注意してください。

野菜類 灰色かび病

イチゴやトマトでは、果実や茎葉での発病が見られるほか、葉先枯れや花がら、果梗などの枯死部位にも本病の寄生が見られ、ほ場内の菌密度は高まっていると考えられます。

本病の発生適温は15℃~23℃であり、90%以上の多湿条件で発生が助長されます。今後の気温は平年より高いと予報されており、施設内は発生適温となると考えられるため、増加すると予想されます。

防除にあたっては、ほ場内の菌密度が高い状態で薬剤散布を行うと耐性菌の発生を助長するため、発病部位を取り除いてから実施してください。



トマトに発生した灰色かび病

東海地方1カ月予報(名古屋地方気象台 3月24日)

向こう1カ月の気温は平年より高く、降水量は平年並み、日照時間は平年並みと予想されます。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767